



臨床研修病院 10 周年記念同窓会

研修管理委員会委員長
近森病院循環器内科主任部長 川井 和哉

10月25日、「臨床研修病院10周年記念同窓会」をホテル日航高知旭ロイヤルで行いました。開演前から懐かしい写真を貼ったボードの前にみんなが集まり、和気あいあいとした雰囲気では話が弾んでいました。1期生から今春研修を修了した8期生までの50名中37名が集まり、現在研修中の9、10期生と指導医などを含め88名の参加でした。

まず、主催者を代表し近森正幸理事長からの挨拶がありました。とくにここ5、6年の近森病院の変化は著しく、多くの画像を示しながら、現在までの道と未来像について説明していただきました。これからもより良い医師を育てたいという熱意が伝わってきました。そして初代研修管理委員長の北村

龍彦副院長から臨床研修病院としての変遷、初期のころの苦労話や研修医たちの足跡について、写真を交えながら説明がありました。浜重直久副院長の研修の思い出話と乾杯で会が始まりました。今まで直接会うことのなかった先輩、後輩の交流や、指導医たちとの思い出話に花が咲き、会場は大いに盛り上がりました。

現在研修中の9、10期生、指導医数名の代表の話の後、1期生から順番に壇上に上がってもらい、卒業生全員から挨拶をいただきました。1期生は修了後すでに8年が経過し、専門医や医学博士となったものも多く、県内外の施設で中堅医師として活躍しています。彼らの充実した医師生活が感じられ、頼もしく感慨深いものがありました。研修修了後、県外で活躍している医師も多く、歴史とともに人脈の広がりを実感し心強く思いました。

来年も定員10名の

フルマッチが10月23日に発表され、みんなの前で報告することができました。5年連続の快挙で、研修病院としての高い評価の証であり、光栄に思います。1期生から始まった当院の臨床研修ですが、研修医、指導医、コメディカルスタッフのみなんで作り上げてきました。研修に関わってくれたすべての人に心から感謝しています。さらなるレベルアップのためにこれからもご協力をお願い致します。次回は5年後に開催する予定です。また、みんなで集まり、楽しいひと時を過ごしましょう。

かわい かずや



近森病院 臨床研修病院 10周年記念同窓会



エンド・オブ・ライフ・ケアの 質向上に向け

統括看護部長 岡本 充子

「ELNEC」とは、2000年に米国で開発されたエンド・オブ・ライフ・ケアを提供する看護師に必要な知識を教育するための系統的・包括的なプログラムです。

「ELNEC-J 高齢者看護師教育プログラム」は老人看護専門看護師が中心と

なり、日本緩和医療学会が作成した ELNEC-J コアカリキュラムを基盤とし、米国の ELNEC-G を参考に、わが国の文化と実状を踏まえて作成しました。

今年度からこの「ELNEC-J 高齢者看護師教育プログラム」での研修が開催されることになり、高知で10月25、26日の2日間にわたり開催されました。研修講師やファシリテーターは、老人看護専門看護師13名が行い、高知県内だけでなく関西な



▲最前列向かって右から二人目が筆者

ど県内外から51名の参加があり、48名に修了証が渡されました。

研修では、講義だけでなく、ロールプレイやグループワークもあり、参加した方からは、「研修での学びを日々のケアに活かしていきたい」、「参加してよかった」などの声をいただきました。高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアの質向上に向け、老人看護専門看護師として、仲間と共にこれからも頑張っていこうと思います。

おかもと じゅんこ



本館1階Bゾーン改修工事の完成と新病棟への引っ越し

診療支援部部長 寺田 文彦

総合診療科の診察室完成

本館A棟の完成、引っ越しに引き続き、本館BCゾーンの2次改修工事が完成、本館1階Bゾーンには総合診療科の診察室が完成し、火、水、木曜日の午前中が診察日となっております。受診する診療科が分からない疾患の場合に、問診、診察を含む初期治療診断を行います。

家族控室移設

同じ1階フロアには旧館4階にあった家族控室を移設しましたので、イートインコーナーと共に、夜間待ち合いなどにご利用下さい。連泊が必要な場

合は、最寄りのホテルをご紹介します。

12月6日引越

本館5、6階のBCゾーンに完成した新病棟への引っ越しを12月6日に行います。対象病棟は本館Aゾーンの5～7階病棟、SCU病棟の患者さんです。

センター別に内科系、外科系のスタッフが協力し合い、高齢で重症化した患者さんの早期治療にあたります。

てらだ ふみひこ



▲総合診療科受付

▼家族控室。隣にカーテンで仕切ったもう一室（フローリング）があります



お弁当拝見 28 毎朝ギュッと 詰め込んでます！



近森病院北館4階

歯科衛生士 橋村 英津子

私のお弁当は、もちろん前の晩の残り物。高3の息子と高1の娘と私の三つのお弁当には大事なことがあります。

自転車で揺られても大丈夫なようにギュッと詰め込みます。最近は

娘と詰めることもありちょっぴり助かっています。

おかずの内容は残り物だけに子供の大好きなお肉料理が入ることは少ないですね。晩ご飯に明日の分まで



と、たくさんのからあげを作っても食べきられてしまうのでお魚、野菜系煮物中心の地味なお弁当です。

はしむら えつこ

～効けば最高、 抗癌剤～

近森病院泌尿器科

主任部長 谷村 正信



今は昔、私が医者になった頃、尿性器癌に対する抗癌剤は、全く効く印象はありませんでした。膀胱癌（尿路上皮癌）に対しては、様々な抗癌剤の組み合わせが試されていましたが、いずれもはかばかしい結果は出ていませんでした。しかし、M-VAC 療法（MTX, VLB, ADM, CDDP）の登場は画期的で、1988 年に報告されるや、全世界的な治療法となりました。私も多発腹腔内リンパ節転移の患者さんで完全寛解

（CR）を経験し、抗癌剤って効くものだと思ったものです。但し、この治療法は白血球減少が著明で、安心して使用できるようになるのは、あと 5 年ほどして G-CSF 製剤（白血球増加させる薬剤）が登場してからでした。現在、次の治療法として M-VAC 療法再発例にもよく効く GC 療法（GM, CDDP）が登場し、最近では初回治療でも使用しています。

男性の癌として、精巣癌と前立腺癌があります。精巣癌は固形がんの中で最も化学療法が奏功する癌ですが、最

近は末梢血幹細胞移植を利用する超大量化学療法も行うようになっていきます。前立腺癌は 30 年ほど前には、除睾術と女性ホルモン投与しかありませんでしたが、最近では種々の内分泌治療薬や治療抵抗性の前立腺癌（CRPC）にドセタキセルなども使用されています。患者数の増加に伴い、今後も益々新薬が出てくる分野の一つです。

腎癌に対する抗癌剤も全く効かず、インターフェロンなどのサイトカイン療法が開発されてきましたが、最近では TK 阻害剤などの分子標的薬が多く開発され、当院でも使用して良好な結果が出ています。

駆け足で 30 年を振り返りましたが、治療法の進歩には目を見張るものがあります。現在の最新の治療法も 30 年後は、浦島太郎の世界となっているでしょう。

ではでは 30 年後、機会が合えば、またお会いいたしましょう。

たにむら まさのぶ

12月の歳時記

パンジー

近森リハビリテーション病院

医事課 田邊 稚菜



パンジーの名前の由来は、フランス語の「パンセ(思い、考え)」から来ているとのこと。花も物思いにふける人の顔のように見えますね。

小学生のころ学校でパンジーを育て、近所の方に配ったことを思い出します。毎朝手入れをし綺麗に育ったことはもちろん、配った方からお礼の手紙を頂き嬉しかったことを覚えています。

たなべ わかな



絵・近森病院
附属看護学校
設立準備事務局
公文幸子

パリの空の下で



近森 正幸

パリを訪ねるのはもう 20 回以上になる。今回の院内旅行はノルマンディとモンサンミッシェルの後、二日間のフリータイムがとれたので美術館巡りやお買物、お任せの観光には行かずに、妻と二人でパリを自由気ままに歩くことにした。久しぶりに出発前から何冊かのガイドブックであらかじめコースを調べておいて、観光客の少ないパッサージュや路地裏、地元客で賑わう通りや広場などを散策できたのが嬉しかった。

今回は買い物にしても、ジャンポールエヴァンのオレンジとトリュフの香りのオリーブオイルと塩、それに、自分用に街中の古い地図屋さんで 400

年前のまだ城壁の残ったパリの古地図のオリジナルを買っただけだった。

オペラ座からパレ・ロワイヤル、パノラマなどのいくつかのパッサージュ、モントルグイユ通り、サン・マルタン運河、二日目はチュイルリー公園やマレ地区のヴォージュ広場などを散策した。

シテ島のノートルダム大聖堂は観光客で賑わっているが、すぐ近くの地元の人しか行かないようなドフィヌ広場に面した小さなレストランで食事をした。そこで一人の男性がオリーブをつまみにワインを飲んでいて。後で恋人と待ち合せているのがわかったが、一人で待っている時間も楽しんでいるパリの人たちのエスプリを感じた。

今回の旅は、カフェでエスプレッソを飲んだり、公園で抜けるような青空を見上げて、心ゆくまで二人のパリを楽しんだ。

理事長・ちかもり まさゆき



待ち合せていた恋人たち

アメリカ胸部外科学会セミナー「HEART VALVE SUMMIT」に参加して



近森病院心臓血管外科

部長 池淵 正彦

アメリカの最先端のセミナーを受講



心臓弁膜症の診断と治療について、アメリカで最新の知見を勉強するため、シカゴまで行かせていただきました。毎朝7時半から朝食、昼食付きの集中講義でした。

近森病院の心臓弁膜症の手術成績は

極めて良好であり、たとえば大動脈弁手術では、80歳以上の高齢者が34%も占めるなかで、感染性心内膜炎や重症腎不全の患者さんを含めても、術後30日死亡は0.6%しかありません(99.4%の救命率)。これ

は世界でも圧倒的に良い成績なのですが、それでも「心臓手術は危険で怖いもの」というイメージから手術を諦める患者さんや、心臓外科への紹介を躊躇する地域の先生方もいらっしゃるのではないかと思います。

折しも心臓弁膜症の治療は大きな変革の時期にあり、たとえば大動脈弁狭窄症では、「カテーテルを用いた手術(TAVI)」によって、身体に過度の負担をかけることなく治療する方法が開発されています。ヨーロッパで開発され、アメリカや日本の一部の施設でも有効性が確認されてきている方法です。

近森病院でも本治療を行うことのできる「ハイブリッド手術室」が完成し、認可も済ませて、準備が着々と進んでいる状況です。そのようなタイミングで、アメリカの最先端のセミナーを受講することができ、とても勉強になりました。今後も、すべての患者さんのために、最適な治療を提供できるように努めてまいりたいと考えています。「世界一の治療を高知県で」。

いけぶち まさひこ

● PS アワード 2014 の授賞式 ●

11月4日、「PS アワード 2014」の授賞式が行われ、受賞者の皆さんに近森理事長から表彰状と副賞が手渡され、「この人ならと納得の方が選ばれている。皆の笑顔で近森病院をさらに良くして欲しい」と激励の言葉が送られました。おめでとうございました。これをきっかけに、職員同士が素晴らしいところを発見し、成長できる職場風土が盛り上がってい

き、働きやすい職場に、もっと患者さんに喜ばれる病院になっていければと思います。この取り組みに興味を持って投票いただいたたくさんの方々に、一同心より感謝いたします。PSサポーター一同

● 訂正 ●

PS AWARD 受賞者の澤田和幸さんの所属は「セコムジャスティック高知株式会社」でした。訂正してお詫びします。



第48回 四国透析療法研究会

2014年9月28日

4年振りに高知県で開催

近森病院泌尿器科

主任部長 谷村 正信



仲秋の9月28日に、第48回四国透析療法研究会をサザンシティホテルで開催いたしました。本研究会は四国4県の持ち回りで開催しており、今回は第44回に引き続き、小生が代表世話人として開催いたしました。

一般演題52題、ランチョンセミナー3題、特別講演1題と、朝早くから夕

方までの濃厚な研究会となり、例年以上の参加者(医師77名、技士・看護師含めコメディカル515名)で、一日中熱心な討議が続きしました。

そんななか、当院刈谷博幸看護師発表の「血液透析中に行う人工炭酸泉浴の効果と安全性について」が学術奨励

賞を受賞されました。おめでとうございます。お忙しいなか、お手伝い下さった当院スタッフの皆さん誠に有難うございました。この場を借りまして御礼申し上げます。

たにむら まさのぶ



集中ケア認定看護師として

近森病院 ICU 集中ケア認定看護師
谷脇 和歌子



日本看護協会の認定審査を合格し近森病院では1人目、高知県では6人目の集中ケア認定看護師となりました。認定看護師とは、ある特定の分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者とされています。現在、特定されている分野は21領域となっており、各々の専門分野における認定看護師としての質を求められていると思っています。当然な

がら集中ケア領域は診療科別でも疾患別でもありません。集中ケア認定看護師の責務（使命）は、急性かつ重症で生命の危機状態にある患者・家族に対して病態変化を予測、重篤化を回避し、常に患者・家族の尊厳を保ち早期に日常生活が送れるよう援助すること。また集中ケアに携わる看護者に対して指

導、相談を実践することです。無事に認定審査に合格しましたが、集中ケア認定看護師としての壮大な課題に正直不安はたくさんあります。集中ケア認定看護師が1人いるからといって劇的に看護の質は変わりません。しかし近森で働く看護師は、認定看護師でなくても個々で使命や信念をもって看護に携わっていると感じています。そんな素敵な仲間と時間はかかるかもしれませんが、近森ならではの集中ケアの確立を目指したいと思います。まずは身の丈にあった実践を積み重ねて、自己研鑽に励みます。患者さん、ご家族のために様々な場所に顔をだすことや、生意気にも意見する場面があるかもしれません。その時はどうかご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

たにわき わかこ

第138回地域医療講演会

2014年10月31日

がん化学療法における 患者さんへの向き合い方から 最新治療まで

近森病院外科
部長 田中 洋輔



10月31日（金）「がん化学療法 A to Z お作法教えます」と題して、神戸市立医療センター中央市民病院・腫瘍内科部長、辻見仁先生にご講演いただきました。

がん化学療法の意義、がん治療の都市伝説、健康情報のウソの見分け方のお話から始まり、続いて胃癌、大腸癌、膵癌の薬物療法の歴史からエビデンス

にもとづく現在の標準治療、最新の治療とその注意点、さらに支持療法の重要性のお話を、分かりやすくかつ興味を惹く比喻で講演いただき、1時間30分があっという間に過ぎました。

講演中にも講演後の質問へのご回答にも、患者さんに対する向き合い方のお話があり、たいへん印象的でした。

当日は悪天候にもかかわらず院外か



▲神戸市立医療センター中央市民病院
腫瘍内科部長、辻見仁先生

らの参加者16名を含む計65名の多職種の方々に参加頂き、初歩的知識を得たい方にも最新治療を知りたい方にも有意義な講演会でした。

たなか ようすけ

看護管理の達人と行く精神科看護セミナー

2014年10月23、24日

～実際に、見て、語るセッション～

近森病院総合心療センター
看護部長 松永 智香

第二分院（現総合心療センター）の元看護管理者であり、現在日精看専務

理事の仲野栄さんが久しぶりに帰ってまいりました。明神センター長が「そ



の人らしさを大事にする」精神科医療の理念に即した実践を熱く語り、近森理事長は「近森病院の経営戦略～精神科看護管理に役立つ一般急性期医療の発想」と題した講演を行い、参加者は元気とエールを得ることができました。さらに、大塚恒子副会長（日精看）自身の看護管理実践のお話の後、梶原理事も飛び入り参加し、活発なディスカッションを行い、有意義な時間を過ごしました。

中国四国地区から参加されたみなさまと共に、これからも精神科看護の質向上をめざして行こうと決意した2日間でした。日精看高知県支部のみなさま、ご協力ありがとうございました。

まつなが ともか

● IVR-CT とは ●

頭頸部血管病変の診断に加え、脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳梗塞に対する血管内再開通療法などの治療を行います。

バイプレーンによる2方向からのX線透視・血管造影（DSA）とCTというまったく異なるシステムを兼ね備えたIVR-CTにより、患者さんの移動を行うことなく併用でき、より安全な治療と迅速な検査が可能です。



70代男性患者さんの 左内頸動脈

近森病院脳神経外科部長 林 悟

内頸動脈狭窄症の外科治療には、手術で狭窄部病変を取り除く内膜剥離術と、今回行った頸動脈ステント留置術があります。

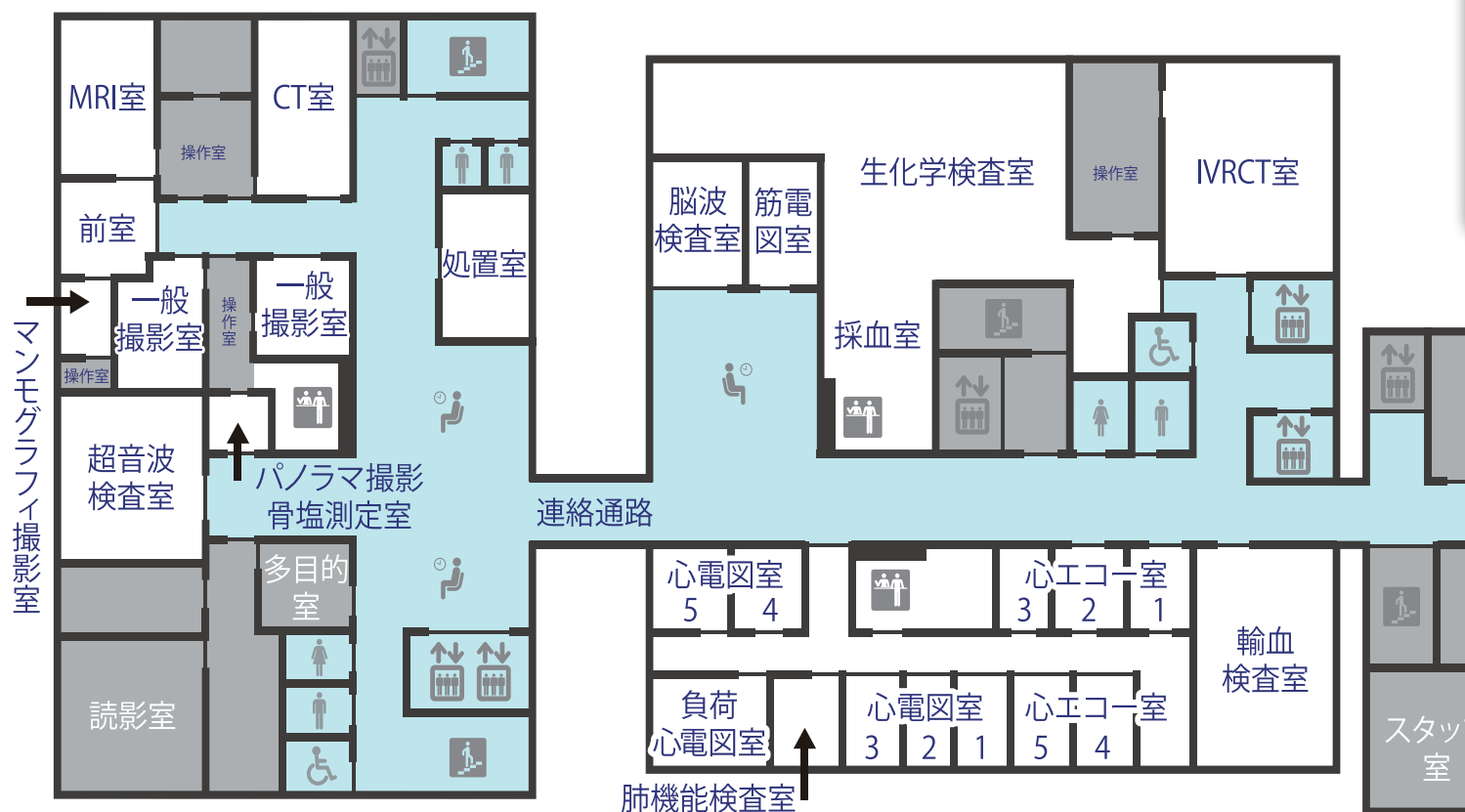
手術前の検査で、病変の性状や頸動脈の走行、全身状態を精査して、もっとも適する治療法を患者さんにお勧めしています。

今回の症例は、頸動脈ステント留置術が適していると判断しましたが、狭窄部病変の前後の動脈の蛇行が強く、また他の動脈と病変部の重なりで、多方向からの観察が必要でした。

今回導入となったIVR-CT（解説参照）では、同時に2方向からの透視で血管の走行を確認するため、ステント留置術をより安全に行うことができました。術後も合併症はなく順調に経過し、退院されました。

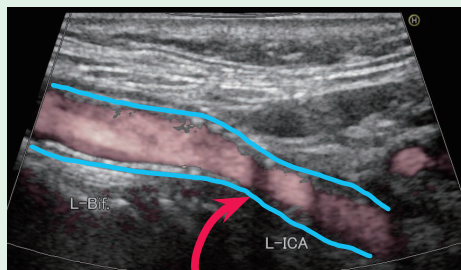
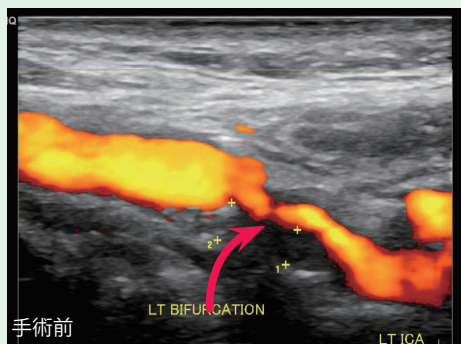
頭頸部では太い血管から細い血管まで、複雑に走行していますので、3次元的に観察して、治療を行うことがとても重要となります。

はやし さとる



外来センター・本館3階検査フロア ～IVRCT～

狭窄症の治療



▲手術後の状態。青い線の部分は「ステント」で、血管の狭窄部分が改善されている

肝細胞がんに対する 動脈化学塞栓術（TACE） での有効利用

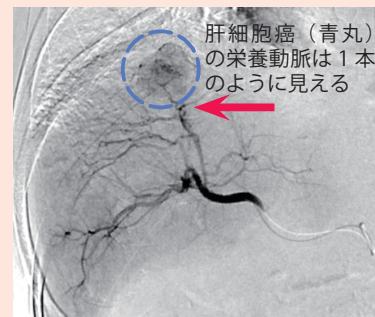
近森病院放射線科部長 宮崎 延裕

肝細胞癌に対する動脈化学塞栓術（TACE）では、十分な治療効果を得て、かつ正常肝のダメージを極力少なくするために、栄養血管をできるだけ選択的に塞栓する必要があります。しかし、関与する動脈が複数ある場合も多く、治療が不十分となる可能性があります。

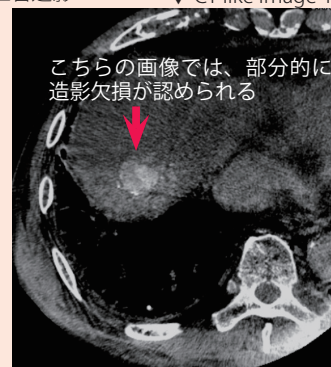
今回の症例は、血管造影（DSA）では栄養動脈が1本のように見えたが、CT like image（回転DSAの応用技術）を撮影することで、病変のごく一部が他の動脈から栄養されていることが判明し、不完全な治療を回避できました。

また、患者さんを血管造影の検査台から移動させずに即座にCTが撮影できるため、病変に充分薬剤が注入されていることも確認できました。

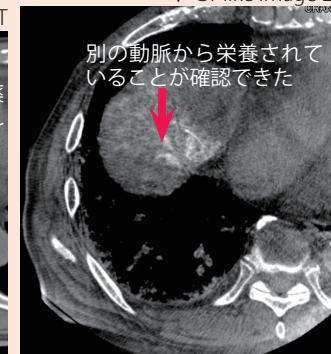
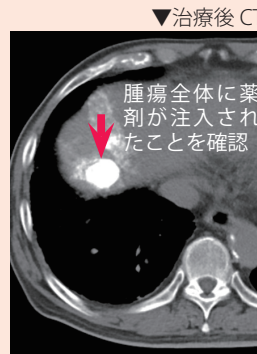
みやざき のぶひろ



▲血管造影 ▼CT like image 1



▼CT like image 2



近森病院 EVT Work-Shop

EVT、カテーテル治療の 体験セミナー

近森病院循環器科
部長 關 秀一

10月14日から2日間にわたって、「近森病院 EVT Work-Shop」が開催されました。

EVTとは末梢動脈疾患（主に下肢動脈の動脈硬化による循環障害）のカテーテルによる治療のことで、Work-Shop（ワークショップ）とは体験型セミナーのことです。

このEVT、カテーテル治療によって、

これまで下肢切断を余儀なくされていた患者さんの下肢切断が回避され、歩行時に生じた足の痛みがとれることによって歩行距離が延び、さらには寿命も延びるということもあって、当院でも治療件数は急増しています。

今回は、済生会横浜市東部病院の平野敬典先生や、永井美枝子検査技師をお招きし、通常はエックス線透視や造影剤を使用して行う治療を、エックス線透視や造影剤を極力使用しないエコーガイドEVTを行なっていただきました。

県外からも6名の医師が参加して、熱心に治療を見学されました。

歩くと太ももやふくらはぎが痛み、少し休むと治まるが、歩き始めると再び痛み出す……、このような症状がありまし



平野敬典先生



▲エコーガイドを実際に行いながらレクチャーしている永井技師



▲前列向かって左から二人目が筆者

たら、当院循環器内科にご相談ください。

せき しゅういち

近森会健康保険組合

第2回ポールウォーキング

10月26日に開催の第2回ポールウォーキングは、潮江天満宮をスタートし、紅葉橋を經由して戻ってくる鏡川河畔約6Kmのコースを、安岡講師のレクチャーを交えながら楽しく歩きました。



和田廣政の 春物の畑仕事が忙しく

近森病院総合心療センター
事務長 和田 廣政

稲の収穫が終わると、冬から春物の畑作業が忙しくなります。米作りは1人で出来るようになりましたが、野菜作りはまだ母（90歳）にはかないません。

今日は玉ねぎの苗床つくりで粗起こしと堆肥、苦土石灰（pH調整のため）の散布でしたが、長年の経験での作業で言葉では教えてくれません。見渡すといつのまにか白菜、キャベツ、ハウレンソウ、春菊、



▲稲の収穫が終わると冬から春物の畑作業

田舎から その9



ニンジン、大根、ミズナ、ブロッコリーなど、いつも自然にあると思っていた野菜が育っています。もう少し長生きして教えてもらわないとこの広い畑は困ります。

肌寒くなる時期、「ツガニ」の蟹味噌がおいしくなります。昔は家のそばの谷にもたくさんツガニがいて、谷で洗い物をしていると洗い場の岩穴からこぼれたご飯粒を食べに蟹が顔を出すのが見られたほどたくさんいました。夜、電燈を点けて岩穴から出てきているツガニを長いハサミで獲るのが楽しみでした。今では少なくなり、四万十川中流域に住む妻の里で毎年頂いてきて、池で蟹味噌がおいしくなるまで

◀畑仕事はいまでも母にかなわない
▼カボチャを餌に育てるツガニ



カボチャを餌に飼っています。塩茹でや、茄子の味噌汁と合わせるとおいしくいただけます。

わだ ひろまさ



▲ツガニの料理

持久系の魅力を 仕事に活かしたい



▲仕事中

「スポーツの力」をいま改めて

「スポーツの力」が、東京五輪の開催決定を受けて以来、改めて見直されているようだが、刈谷さんはこの力を看護師という仕事のなかで、とてもいい感じに発揮できているらしい。というのも、近森会に就職して1年半が過ぎたところだが、すでに、「なんでも任しちよき!」といった信頼を得ているようなのだ。20年以上続ける自主トレーニングのゆえか、がっしりした肉体の看護師には、高齢の透析患者さんも自然と癒されている風だ。

野球からソフトへ、全国へ

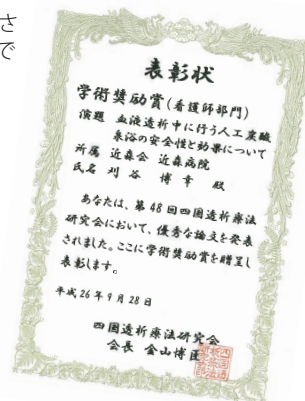
佐川町で育った子ども時代、遊びは球技が中心で、それが少年野球、中学校では全国大会に行くほどの野球チームでのプレーに繋がり、そのメンバーが皆、揃って家から比較的近い須崎工業高校に進み、そこでも全国を目指したが、甲子園常連のような強豪数校に阻まれた。それならばとソフトボールで全国を目指し、インターハイ、国体には二度出場でき、それがもとで愛知県の会社の実業団チームに誘われた。

ところが、日勤で普通に仕事をした後に課される練習で、しかも、「野球を諦めたあとに始めたソフトボールは、



▶ 9月28日に開催された四国透析研究会では学術奨励賞を受賞

◀ 沿道のカメラマンからプレゼントされた写真



ちょっと惰性でやっているようなところもあり…。これでは余りにもきつ過ぎると、半年頑張り、帰郷した。

希少価値に見出した値打ち

年齢はまだ19の春、夢破れたというほどの痛手は全くなく、故郷では看護師の祖母に、「男性の看護師は珍しくて(当時)いいんじゃない。やってみたら!」と勧められた。

希少価値に値打ちを見出し、それならばと看護学校に通い始めたとき、たまたま下宿の近所で目に留まったのがボクシングジムのポスターだった。深く考えることもなく、練習を覗きに行き、「なにかに挑戦する姿はカッコいい!」と、今度はボクシングを始めた。

マラソンからトライアスロンへ

強くなるにはやはり体力!と、基本練習を黙々とこなし、そんな過程で走ることの気持ちよさに目覚め、練習の成果を試そうと走った20年前の第1回四万十100キロマラソンでは80キロまで県内第1位になった。そのあとリタイアにはなったが、その成績を見たトライアスロンの高知県の会長さんに「やってみないか」と声をかけられた。このときも深くは考えず、「ではやってみます!」と、トライアスロンを始めることにした。水

泳と自転車とマラソン、どれも自分のペースで練習を続けることができた。

持久系スポーツから認定看護師への道

「持久系のスポーツはやったらやっただけの結果が出るし、練習は自分を裏切らないからコツコツ頑張れる」。この気持ちで、看護師になって以来やってみなかった透析室の仕事に、家の近所の病院で就いてからも、もっと深く知りたいと頑張った結果が2012年取得の「透析看護認定看護師」に繋がった。

やる以上はもっと透析看護師の仕事を勉強したいと、近森会に職を得た。やったらやっただけの結果が出る。スポーツについても同様で、ときには練習に没頭しすぎて、家族からのクレームを受けることもあったようだが、上手に受け流しながら、レースに出続ける生活を続けてきた。厄年を機にいまはマラソンに絞ったそうだが、「差をつけられてもオリンピック選手とトライアスロンの試合ができる機会を得たのはラッキーでした」と、そんな経験を看護師の現場に活かしながら、「透析の奥の深さをもっと勉強したい」と意気込んでいる。

職員旅行

今回はガムとフランスのノルマンディからパリへの旅行を楽しみました。

▼夜景のモンサンミッシェルを背景に

▼モンサンミッシェルの階段を膝で登り巡礼

▼ガムの海



「認定の会 ニュースレター」

統括看護部長
岡本 充子

看護部認定の会では、資格認定をもつ看護師として自分たちの活動を知ってもらい活用してもらうことで、看護部全体の質向上に貢献していきたいと考え、2011年6月ニュースレター第1号を発行し、活動内容を紹介することになりました。各部署に届いた際には、手に取っていただき、「〇〇さんに相談してみよう」と思い、活用してもらえたらと思います。 おかもと じゅんこ



リレーエッセイ

同期と一緒に

近森病院総合心療センター 4階

看護師 江村 優
濱口 菜々



向かって左・江村 優、右・濱口 菜々

平和な同期やね」と話していたところでした。

そんな二人が唯一大きく違うところは趣味です。江村はカフェ巡りやお菓子作り、濱口はダンスやアウトドアなど見事に対照的です。しかし、お互い好きなことを共有して、江村は体力づくり、濱口は江村とお菓子作りに励み、新たな趣味の開拓中です。二人の思い出は、「ちかもりよさこい」に参加したこと、去年の院内旅行でディズニーランドに行ったことです。濱口は踊り子として、江村はスタッフとして毎年参加し、高知の夏を楽しんでいます。

ディズニーランドでは夢の世界を思う存分楽しんできました。ランドホテルではキャラクターに囲まれ、年甲斐にもなくはしゃいでしまいました。

楽しいことも、つらいことも共に乗り越えてきた同期だからこそ、分り合えることもたくさんあります。これからも支えあいながら、お互いが成長していけるよう頑張りたいです。このような同期に出会えたことを誇りに思います。

えむら ゆう／はまぐち なな

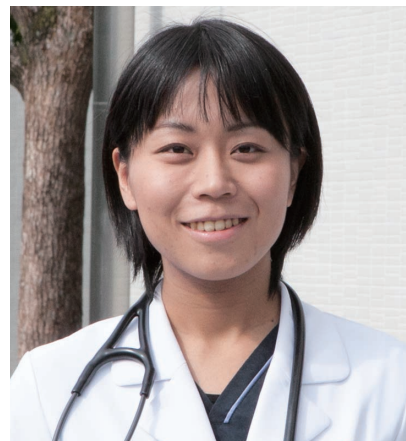


精神看護師に憧れ近森病院に就職し、早くも3年が経ちました。同期の私たちはユニットの異動や北館への半年間の研修もすべて一緒でした。楽しい時、嬉しい時、しんどい時、つらい時、どんな時も二人で支えあいながら頑張ってきました。

今回リレーエッセイのお話をいただいたとき、なにかインパクトのあるエピソードがあった方がいいのではないのかな？ と二人で話していたのですが、ケンカもなければ楽しかったことしか浮かばず、「つくづく

ハッスル研修医

一艇ありて一人なし



初期研修医 藤原 麻美

初めまして、研修医1年目の藤原麻美です。4月に近森での研修が始まったときは不安でいっぱいでしたが、この半年で少しずつ出来ることが増え、今では毎日充実した研修生活を送っています。

私は宮崎大学でボート部に入り、週5でボートを漕ぎ、たまに和太鼓を叩き、卒後は初期研修を期に地元高知へ帰って来ました。ボートは皆で息を合わせ、一糸乱れぬ動きで漕ぐスポーツです。自分が漕ぎ止めると艇（ボート）は進まなくなるので、辛いときも休むことの出来ない、実際は結構キツイスポーツです。チームに対する責任は大きく、苦しいときもありますが、その分より一層の信頼関係や団結力が生まれます。

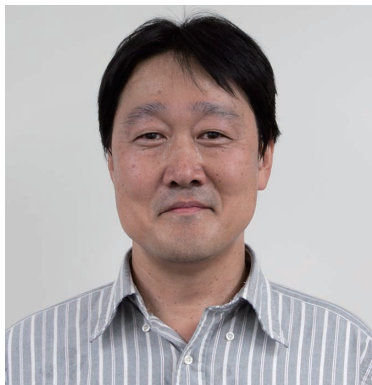
今はまだ自分の治療方針に自信が持てず、たくさんの方々に守られ、それに甘えているまだまだ未熟な研修医ですが、チーム医療の一員として仲間から、そして患者さんから必要とされる人間になれるよう、また必要とされることに責任と覚悟が持てるよう、日々励んでいきたいと思っています。 ふじわら あさみ

乞！熱烈応援

「和」を大切に

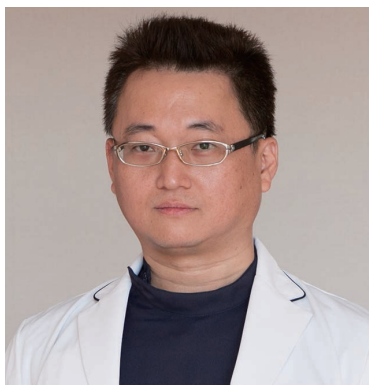
いつも通りに、そしてその先へ

責任の重大さを



医局長
近森病院外科部長
八木 健

この度前医局長の森田先生のご逝去に伴い、医局長にご指名いただきました。もっと他に適任者がいるのではと思いますが、以前に森田先生からのご推薦があったと理事長より伺いました。光栄であるとともに身の引き締まる思いです。森田先生は放射線科部長として近森病院の診療各科の核であり、医局長としての存在感はとても大きかったと思います。医局員の「和」を大切にしていた森田先生を目標に頑張りたいと思います。 やぎ けん



近森病院放射線科部長
画像診断部部长
宮崎 延裕

11/1 付けで現職を拝命しました。放射線科医としてやりがいがあり、また大事にされていると感じられる近森病院の環境は、先日逝去された森田賢部長の築かれた財産だと感じています。

個人として「いつも通り」の仕事を提供する姿勢に変わりはありませんが、組織として、変化に対応するため「一歩先」を見据え、スタッフと共に成長し、全体に貢献できるよう励んでいく所存です。 みやざき のぶひろ



画像診断部 診療放射線技師
副技師長
中村 伸治

このたび、画像診断部副技師長を拝命し、感謝の気持ちでいっぱいです。突然のことでびっくりしましたが、嬉しい気持ちと共に、責任の重大さをひしひしと感じています。

これまで以上に精進して、頑張っていく所存です。至らぬところが多々あると思いますので、皆様方にはご支援、ご協力をお願い致します。

なかむら しんじ

日本消化器病学会「研修医奨励賞受賞」

保存的に治療した孤立性上腸間膜動脈解離の3例

初期研修医 芝 太郎

今回このような賞を受賞できましたのは、ひとえに北岡先生はじめ消化器内科の先生方の熱いご指導のおかげです。初めての学会発表でスライド作りや発表の仕方、文献検索の方法など、一から教えていただき、とても感謝しています。

また今回の学会では、他の病院で頑

張っているバスケット部時代の同級生や先

しば たろう



ワイン講座 ● 26

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その③

グルナッシュ

先月のボジョレー地区を南下すると、ローヌ地方に入ります。フランスでは、この産地や、ラングドック、プロヴァンスで多く栽培され、赤、ロゼ・ワインの原料として造られています。

生産される国によって呼び名は様々で、グルナッシュ（フランス語）、カンノウ（イタリア語）は、スペイン原産の品種でガルナッチャ（スペイン語）と呼ばれ、スペイン最大の栽培面積を誇ります。現在、スペインからカリフォルニアやオーストラリアまで、世界中のほぼ全てのワイン産地で見ることが出来ます。

香りは、コショウ、ハーブなどのスパイシーな香りとともに、ラズベリーなど

コート・デュ・ローヌ・レレモンテール/グラムノン/フランス、ローヌ地方●女性醸造家によるもの。一般的に濃いタイプが多いローヌワインの中、派手で力強いというものではなく、生産者の人柄なのか、ピュアで優しく、滋味豊かなタイプ。

果実の甘やかな雰囲気。味わいは、酸味は全般的に少なく、果実感のある豊かなで、ちょっぴリアルコールもちょっと高め、満足感のある味わいのものが多くあります。

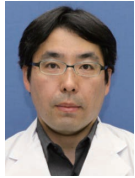
フランスで最高の生産者のグルナッシュを探せば、値段の高低に関わらず、熟成させることで、偉大なワインの片りんを感じさせてくれるワインで出会う事が出来ます。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



いしだ まさゆき①呼吸器
内科科長②神奈川県茅ヶ崎
市③東海大学医学部医学科
④縁あって、また高知で働
かせて頂くことになりまし
た。

石田 正之 今まで以上に呼吸器、感
染症診療の充実を図っていきたいと考
えています。

図書室便り

(2014年10月受入分)

- Rockwood and Green's fractures in adults Eighth Edition Vol.1,2 / Charles M. Court-Brown (他編)
- 心 CT01 創刊号新世代CT / 小室一成 (他編)
- 心 CT02 64列 MDCT をいかに使いこなすか? / 栗林幸夫 (他編)
- 心 CT04 MDCT で心臓を診る: 冠動脈イメージングを越えて MDCT を活かす / 加地修一郎 (編)
- 心 CT011 心臓 CT の使い方: 現在のコンセンサス / 船橋伸禎 (他編)
- 心 CT012 心筋症を MDCT で診る / 木村文子
- 《別冊・増刊号》
- 別冊整形外科 整形外科の手術手技ー私はこうしている / 星野雄一 (編)
- 別冊医学のあゆみ 神経変性疾患: 研究と診療の進歩 / 辻省次
- 別冊医学のあゆみ 遺伝子・再生医療研究から学ぶパーキンソン病 / 望月秀樹 (編)
- 臨床栄養別冊栄養力 UP NST 症例集④ / 雨海照祥 (監)
- 精神科治療学 29 巻増刊号発達障害ベストプラクティスー子どもから大人までー / 「精神科治療学」編集委員会 (編)
- こころの科学 HUMAN MIND SPECIAL ISSUE 2014 神経発達障害のすべて DSM-5 対応 / 森則夫 (他編)
- HEART nursing 2014 年 秋 季 増 刊 PCI・PPI・アブレーション・TAVI の治療と看護マスター BOOK / 樫田光夫 (監)
- Infection Control 2014 年 秋 季 増 刊 “初めてさん”も“自己流さん”も図解でわかる! みんなの感染対策キホンノート / インフェクションコントロール編集室 (編)
- 《視聴覚資料》
- Audio-Visual Journal of JUA Vol.20 No.4 / 日本泌尿器科学会 (企・監)
- 月の下まで / 奥村盛人 (監督)

編集室通信

2014 年は五カ年計画の目玉である本館 A 棟の完成、電子カルテシステムの更新等、近森病院にとって大きな節目の 1 年になったように思います。

2015 年はリハビリテーション病院の建設、近森病院付属看護学校の開校、オルソリハビリテーション病院の移設もあります。来年も近森らしく、チーム一丸となって突き進む 1 年になることと思います。

はましん

2014 年 10 月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	18,707 人
新入院患者数	859 人
退院患者数	893 人

近森病院 (急性期)

平均在院日数	14.59 日
地域医療支援病院紹介率	60.41 %
地域医療支援病院逆紹介率	145.77 %
救急車搬入件数	498 件
うち入院件数	260 件
手術件数	430 件
うち手術室実施	298 件
→うち全身麻酔件数	182 件

● 平成 26 年 10 月 県外出張件数 145 人
件数 81 件延べ人数 145 人 ●